

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ローマ字を使いこなそう」 教材名「ローマ字を使いこなそう」

2 単元の目標

日常使う簡単な語をローマ字で読み書きすることができる。自分の書いた語や文を読み返し、音と表記の対応を確かめることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常使う簡単な語をローマ字で読み書きしている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	①「書くこと」において、自分の書いた語や文を読み返し、音と表記の対応を確かめている。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

日常の簡単な語をローマ字で読み書きし、音と文字の対応を確かめる。ローマ字の表記と端末への入力方法は必要に応じて区別する。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)ウを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

.....

.....

.....

（3）指導について

独自例「sora」「yama」など既習の音を教師が採用教材の表記規則で示す。ひらがなと対応させ、特殊な音は表を使って確かめる。氏名などの個人情報を外部サイトに入力しない。おおむね満足できる状況は、自分の書いた語や文を読み返し、音と表記の対応を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○既習の音とローマ字を対応させる。日常の語を書いて読み合う。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○特殊な音の表し方を表で確かめる。利用可能な端末では表記と入力を比べる。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

自分の書いた語や文を読み返し、音と表記の対応を確かめることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確かめ、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この音を表す文字は何ですか。書いた文字から元の言葉が読めますか」 【めあて】 日常の簡単な語をローマ字で読み書きし、音と文字の対応を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 子音と母音を組み合わせると読める。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この音を表す文字は何ですか。書いた文字から元の言葉が読めますか」 特殊な音の表し方を表で確かめる。利用可能な端末では表記と入力を比べる。 ひらがなとローマ字の対応、読み合って確かめた語、表記と入力の違いのメモ。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 子音と母音を組み合わせると読める。 ・ 伸ばす音や小さいつの表し方を確かめたい。 ・ 入力では別の打ち方もある。	独自例「sora」「yama」など既習の音を教師が採用教材の表記規則で示す。ひらがなと対応させ、特殊な音は表を使って確かめる。氏名などの個人情報を外部サイトに入力しない。 想定するつまずき：英単語のつづりとローマ字を混同する、端末で変換できれば表記は何でも正しいと考える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 自分の書いた語や文を読み返し、音と表記の対応を確かめている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】 今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 入力では別の打ち方もある。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この音を表す文字は何ですか。書いた文字から元の言葉が読めますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

